

# 園長だより NO33

進級、入園、おめでとうございます。  
新年度がはじまり 一週間が過ぎました。  
新入園児は初めての保育園、初めての先生  
(新たな出会い) いろいろと初めてづくし  
です。

「さあ、今日から保育園よ やさしい先生  
やお友達もいるよ」「楽しいところだから大  
丈夫だよ」という言葉は通用しません。子  
ども達にとっては未知の世界へ一歩踏み込ん  
だともいえるでしょう。

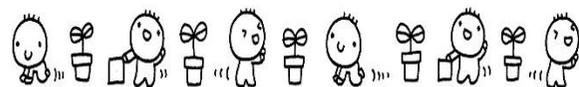
慣らし保育が始まり、お母さんやお父さん  
と一緒に来ているときは大好きな人と一緒に  
に安心して遊ぶことができました。



## 「なんで僕をおいていくの」

母子分離を乗り越えていく。お母さんから  
離れて保育士(大人)との生活がスタート、離  
れ際は親子にとって勇気のいる瞬間です。  
しばらくは涙のお別れが続きます。

別れた後、ケロッと泣き止み遊びだす子、時  
折、思い出しては涙する子、「なんで、僕を置  
いていくのー」と号泣する子、子どもたちの涙  
する姿(泣きの行為)から入園までの親子の関  
係を感じることができます。 本当に大切に  
大切に育てられてきこと、しっかりと親子の  
愛着形成ができていけるのだろうと感じます。



## 「新たな愛着関係を築く」

保育園に入園したことで、身近にいる大切  
な大人(親や家族)との一時の別れを経験しま  
す。今度は保育園の大人(保育士、職員)との  
関係を築いていきます。今は身近にいる担  
任保育士との関係をつくるのが最優先です。  
ただ時には人よりもこの玩具、この空間に夢  
中ということもあります。

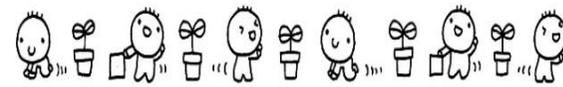
愛着形成とは「親あるい  
はそれにかわる重要な大人  
との間に繰り返し行われる  
日常的な世話(育児行為)などを通じて子ども  
の中に形成される心の絆」と言われています。



保育園に入園し親や家族以外の大人(保育  
士)との関係を持つ中で「この人なら、自分の  
ことを守ってくれる」「この人なら心がおだや  
かでいられる」「この人ならいつも自分を見て  
いてくれる」子どもながらに安心できる人  
と思えるような関係を築ける大人を保育園の  
中でみつけていきます。

前号で「子どもの泣き」にふれましたが新生  
児から6か月頃までには「不快を快にかえ、心  
を通わせる大人を求める泣き」がみられるこ  
とを述べましたが入園まもない子ども達にも  
見られる泣きです。

保育園の大人が子ども達の要求を適切に感  
じ取りとること「おなかがすいた」「おむつが  
ぬれた」「遊んでほしい」などの要求を応答的



に丁寧に世話(育児行為)をできることが求め  
られます。子どもとの対人関係の基礎を作っ  
ていくには世話(育児行為)を通じて日常的な  
個別なかかわり、ふれあいが大切です。

## 「笑顔の中で 育つもの」

子どもたちの心の安定は私たち大人の心の  
安定からとたびたび伝えてきました。

慣らし保育での母子分離初日、おそらく  
新入園児すべてが泣いてしまうだろうと予測  
していました。

予測通りの姿を見せる子ども達と接する保  
育士には少々のゆとりがみられました。

それぞれの泣きに寄り添いながら、子ども  
の心情を理解し優しい言葉をかけていました。

しっかりと親子関係を築いている子ども達  
ですから数日で保育士と呼吸が合い、関係を  
築けるとは到底思いません。ただ、関係の築  
きには少々のゆとりが大切です。

子どもたちの降園後に0歳児担任から  
「子ども達は泣いてしまったけど、私たちは  
一日笑顔でいました。明日も笑顔です。」と  
その心意気はいつまでの継続してもらいたい。  
次期に共に笑える日が身近におとずれる事に  
間違いはないと思う。

泣きの話題ばかりではありません。時折見  
せる子どもの笑顔に「〇〇君の笑顔がとても  
可愛いんですよ」とそれぞれの子どもがみせ  
る表情も丁寧に読み取り、心にとめていく、  
この積み重ねが子ども達、それぞれの安定

につながっていきます。

## 「大きくなるって 楽しいよ」

大きくなった喜びは子ども達にとっては  
「自ら行動を起こす(行動する)原動力になり  
ます」生活行動、衣服の着脱、手洗いや排  
せつ等生活行動を進んで行ってみようとす  
る姿が随所にみられます。

進級まもないこの時期ですから、まだまだ  
不完全、失敗も多々ありますが子どもながら  
に自分でやることを楽しんでいきます。



↑なぜか声を出して 3歳児 ばなな組  
「うわばきはいてまーす」

「なんでもできちゃうよー」と猛烈にアピ  
ール、今まで曲りなりにできた事の自信と心  
情が重なり、なんでも楽しく取り組めるよう  
です。少々の空回りと過信もあり保育士の助  
けを求める場面もありますが・・・

子ども達の起こす行動のほんの小さな事  
でも寄り添う大人はみて、感じてあげるこ  
とに努め、大きくなったことの喜びと楽し  
さを共感してあげたいものです。

(園長 廣部 信隆)